

平成30年度 熊本県 障がい者芸術文化活動普及支援事業 報告書



社会福祉法人 愛隣園
《アール・ブリュット パートナーズ熊本》

目 次

はじめに	1
1. 事業報告（パワーポイント版）	2
2. 事業実施結果報告書（厚労省所定様式）	8
3. 事業概要・主な取り組み（全国連携事務局報告版）	14
4. 生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.4 出展作家作品紹介	16
インディペンデントキュレーター 真武真喜子 氏	
熊本日日新聞社 岩下 勉 氏	
5. 相談支援の概要	27
6. 作品取り扱い覚書	30
7. 展覧会、移動美術館、来観者の感想録（抜粋）	31
8. 感想から見えてくるもの（考察）	39
アール・ブリュット パートナース熊本 副会長 安達憲政 氏	
9. アール・ブリュット パートナース熊本、事業事務局 名簿	41

はじめに

かねてより、皆様のご理解とお力添えに心より感謝申し上げます。この度、平成30年度厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業（美術分野）報告書を作成しましたので、ご一読頂ければ幸いに存じます。

私たち社会福祉法人愛隣園は、障害者芸術活動支援市民団体アール・ブリュット パートナーズ熊本の事務局を担い、同じ想いでつながる皆様と共に、地域に根ざした活動を目指として5年間歩んでまいりました。

本年度、県立美術館本館での生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.4 には、2,056名の来場者をお迎えし、熊本保健科学大学や天草地域での移動美術館も好評を頂きました。

また、熊本県内での芸術活動支援のネットワークが広まる中で、震災復興に取り組むまちづくり団体との連携の下、作品を下通、上通に展示してまちを元気にする取り組みが実現しました。

思いがけないつながりも生まれました。平成31年の年明け早々に起きた地震（和水町、震度6）の後すぐに、遠く青森の障害のある作家から、思いのこもった「復興と鎮魂の祈り」という作品が届きました。これは、我々の活動を支えて下さるキュレーターの方がないでくれたご縁でした。

作品に触れ、作家のパートナーとして、喜びを持って支援を続けたい。支援の輪を拡げて行きたい。私たちの想いもまた新たになりました。

これからも、皆様にご指導を賜りながら、障害者芸術活動の振興に努めたいと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

社会福祉法人 愛隣園
アール・ブリュット パートナーズ熊本

厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業

社会福祉法人 愛隣園
アール・ブリュット パートナース 熊本

平成30年度実績報告



荒木聖憲《四季彩の楽園》/2018

1. 展覧会の実施

(1)「生の芸術 Art Brut 展覧会vol.4」の開催

10月2日～14日 熊本県立美術館 本館

総来場者数 2,056名 アンケート回答数 558件

オープニングセレモニー

ギャラリーツアー：インディペンデントキュレーター 真武真喜子 氏

実演（作家ライブ）：延17回



オープニングセレモニー



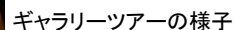
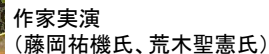
作家自身による説明



10.3 熊本日日新聞

1. 展覧会の実施

(1)「生の芸術ArtBrut展覧会vol.4」の開催



県内21名の作家。約120点を展示
beyond2020認証事業

3

2. 連携事業

(アール・ブリュット移動美術館)

- ① 4月8日～9日 ウェルパルクまもと
(自閉症啓発デー協賛)
- ② 6月9日～15日 熊本中心市街地 上通・下通
(くまもと・まち魅力向上協議会)
- ③ 8月9日～22日 熊本県庁地下通路



4.8~9 ウェルパルクまもと



6.9 くまもと・まち魅力向上協議会



8.9~22 県庁地下通路

2. 連携事業 (アール・ブリュット移動美術館)

- ④ 10月20日～21日 熊本保健科学大学
(学園祭に合わせて)
- ⑤ 11月30日～12月2日 天草教育会館
(天草地方初開催)
- ⑥ 2月14日～ 2月15日 ANAクラウン プラザ ホテル熊本ニュースカイ
(九州障害者支援施設研究大会)
- ⑦ 2月27日～ 3月 3日 久留米シティプラザ



10.20～21 熊本保健科学大学



11.30～12.2 天草教育会館



2.14～15 ANAクラウンプラザホテル

3. 講演の実施

- 「ナントのアールブリュットジャポネ展を訪ねて」
インディペンデントキュレーター 真武真喜子 氏
参加者 55名



- 熊本市障がい者就労支援部会 研修会
「アール・ブリュット パートナース熊本の活動について」
事務局 納富 久
参加者 約60名



4. 研修・人材育成

1. 株式会社風雅との連絡調整の後、店内展示
(7/12～9/7)
2. スタディツアー(九州障害者支援施設協議会 サービス
提供職員研修会内) (10/12)
3. 厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業全国会議
(10/31、3/5)
4. 全国障害者芸術・文化祭おおいた大会 障がい者アート
フォーラム (11/1)
5. 厚労省事業 九州ブロック研修(12/8、12/12、2/3、3/16)
6. 作家・家族・支援者 意見交換会(2/3)
7. アトリエ見学ツアー(3/12)

7

5. 調査・発掘

1. 作家・作品訪問調査 122件
2. 情報提供による作家発掘 7件 (累積登録61名)



8

6. ネットワークづくり

ア 会員の拡充

一般会員 42 名 特別会員 3 名 法人会員 24 件

県重症心身障害児・者を守る会、県障害児者親の会連合会、県身体障害者福祉団体連合会
県手をつなぐ育成会、熊本市手をつなぐ育成会、熊本市発達障がい者支援センターみなわ

株式会社調べ考房、有限会社松永オート

(福)愛火の会、(福)愛隣園、(福)大江学園、(福)菊愛会、(福)慶信会、(福)三気の会

(福)寿量会、(福)西部福祉会、(福)北斗会、(福)八代愛育会、(福)友朋会

(福)リデルライトホーム、NPO法人はまちどり、

(医)かぜ、障害者支援施設しょうぶの里、障害者支援施設第二つつじヶ丘学園

イ 他の団体等との連携

熊本県、熊本市

熊本県障害者スポーツ文化協会、熊本善意銀行、ひのくに知的障害児者生活サポート協会

熊本県立美術館、熊本県身体障害児者施設協議会、熊本日日新聞社

くまもと・まち魅力向上協議会、熊本市発達障がい者支援センターみなわ

熊本保健科学大学、障害者支援施設芥山寮、天草青年会議所OB有志

天草ケーブルネットワーク株式会社、東光社、トライ

厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業 採択団体

九州障害者アートサポートセンター、障害者支援施設出雲サンホーム

9

7. 相談支援

1. 連絡調整件数

情報提供、連絡、日程調整 メール 272件

電話 約300件

会員メール(情報発信 36件) その他

2. 相談件数 78件 (作家・家族・支援者 等)

芸術活動に関すること

展覧会・移動美術館に関すること

著作権に関すること

10

8. 評価・発信

・ウェブサイト

本事業に関する記事の投稿数 33件

アクセス数 2931件

・TV放送 3回、新聞掲載 4回、ラジオ1回



12.1 朝日新聞



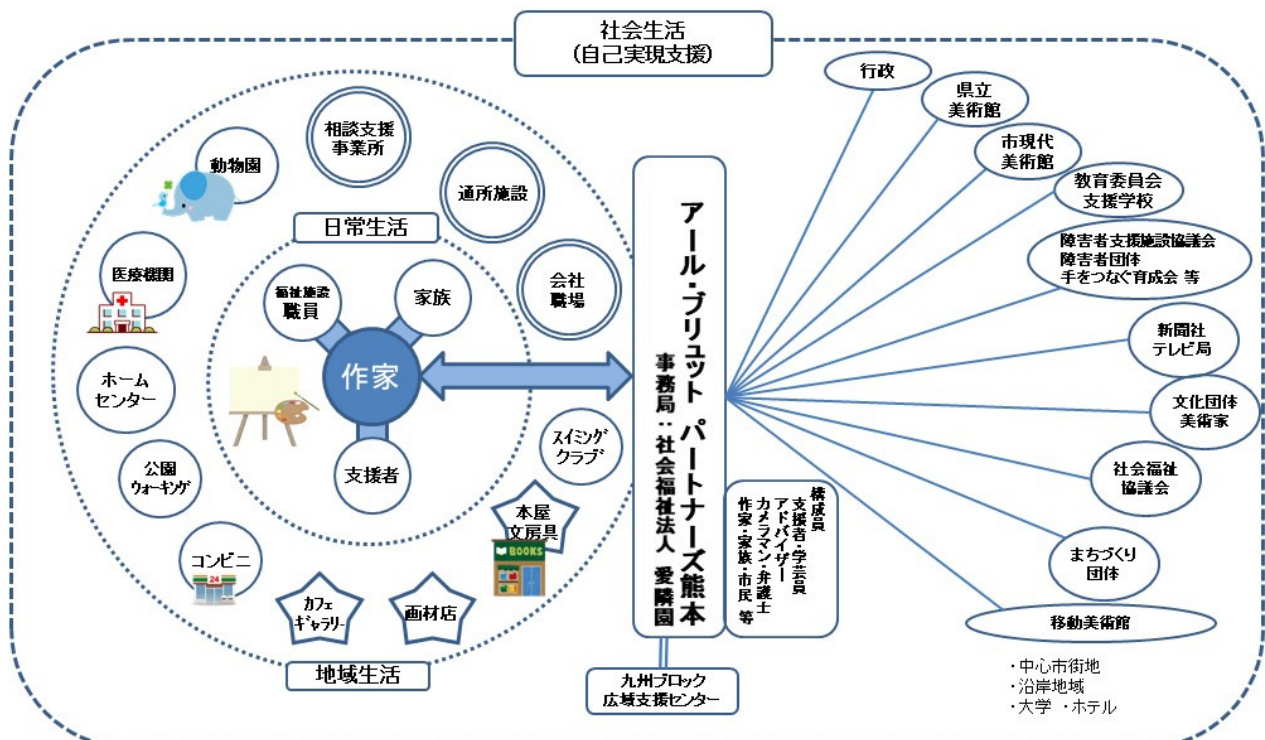
10.3 KKT「てれびタ」



10.4 KAB「スーパーJチャンネル」

地域資源の連携ネットワーク型障害者芸術活動支援モデル「熊本方式」2018

☆「熊本方式」とは、作家を中心に、福祉、教育、芸術、企業、行政等が市民団体として連携し、地域に根ざして、障害者芸術活動を振興していくモデルです。作家の家族等も輪に加わり、互いに刺激しあい高めあって行く(交互作用)を目指しています。作家の自立・社会参加と共に、芸術でつながる地域共生社会が目標です。



2. 事業実績書（県所定様式）

事業実績書

申請団体	団体の名称	社会福祉法人 愛隣園
	連絡先	(住所) 山鹿市津留1910-1 担当者職・氏名 愛隣館 館長 三浦貴子 ・ 事務員 納富久 TEL(0968)43-2771 FAX(0968)43-2793 E-mail: ailinkan@magma.jp

①事業実績・成果

(ア) 事業実績の概要

①相談支援：芸術活動支援や権利保護に関する相談機能を生かし「障害者芸術文化活動支援センター@熊本」では、通年で77件の相談に個別対応した。②人材育成：県外の芸術活動支援関係会議・研修に、他法人スタッフにも声をかけ同行し、県内全体の芸術活動支援の質の向上と地域の広がりを図った。③連携：継続して事業を行う中で県内での認知度が高まり、外部団体（発達障がい者支援センターみなわ、くまもと・まち魅力向上協議会、熊本保健科学大学等）からの協力依頼があり、連携事業が増えた。④展示実績・発信：作家・支援者をはじめとする多団体との連携の下、参加型展覧会を開催した。熊本県立美術館本館での「展覧会」と、大学をはじめ5箇所で開催した「移動美術館」等を通して、4,200人を超える来館者に作品の魅力を発信し、作家へのメッセージが701件寄せられた。

(イ) 事業により得られた成果及び今後の成果の活用方法

①「多様かつ広域ネットワークの活用」

本年度は、中心市街地まちづくり団体、大学、天草地方の教育機関、福祉機関、商工団体、報道機関など幅広くネットワークを活用した。このことにより、作品を発信する社会的活動支援がスムーズに行え、事業の広がりが生まれた。

また、日常生活における制作活動支援として、作家と作家を支える家族や施設スタッフと継続してつながり、作家をとりまく周囲の人々が今年は自ら参加、発信する展開となった。この動きを次年度につなげたい。

②「相談支援の継続」

昨年度設置した「障害者芸術文化活動支援センター@熊本」が徐々に浸透し、行政や福祉事業所等からも相談を受ける回数が増加した。そして、作品の二次利用等に関する相談が増えてきているため、作品の価値や作家の権利を守ることの必要性・重要性を利用要請者側に説明し、法律専門家のアドバイスの下、契約の補助等の支援を適切に行う。

③「作家の自立支援と作品の保護」

作家が収入を得られるよう、作品の二次利用、商品化等に関して、サポートする組織のあり方と方法の検討を始めた。また、費用のかかる額装等に関して、援助の方法はないか等、作品の保護に関するスキルや保存場所等に関する課題にも、美術専門家のアドバイスを受けながら取り組んで行きたい。

④「支援モデル“熊本方式”の推進」

上通・下通での展示、展覧会等で、作家・家族、支援者、来場者による、作品を通じた敬意と誇りと温もりのある交流が進んでいる。今年は、10才と13才の選出作家への学校を上げての応援、作家自身の広報により、作家が勤める会社の社長、従業員の方々の来覧など、作家の周辺から人々が熱をおびてきた。

また、県立美術館へもアール・ブリュット展覧会問い合わせが多数あり、反響が寄せられている。

今後も、みんなが参加して、みんなで高め合う「芸術でつながる地域共生社会」づくりを推進する。地域にある、多様な資源（ひと、もの、資金）が連携し、ネットワークを活かしながら地域の作家を育むプロセスに、市民や団体などより多くの人々が参加し、作品への感動が共生を進める静かな力につながる事業を、私たちの地域熊本でこつこつと続けたい。

②事業実績の詳細

（ア）県内における事業所等に対する相談支援

昨年度から設置している「障害者芸術文化活動支援センター@熊本」では、専門性を重視し、弁護士や学芸員等と電話やメールで連絡を取れる体制を構築している。また、電話による相談対応だけではなく、必要に応じて訪問し、調査等で訪問した際にも相談対応を行った。

信頼関係が深まり、県内事業所スタッフや家族からも支援するうえでの悩み等を相談され、70件を超える相談支援を行った。また、作品を福祉計画の表紙等に使用したい、作品を展示したい等、行政や企業の調整役として契約補助などを行い、作家の社会参加と社会貢献を支援した。そして、相談支援の質を高めるため、県内外施設との情報交換や研修、視察を実施し、県内の芸術活動支援の拡がりを図った。

（イ）芸術文化活動を支援する人材の育成

①キュレーター真武真喜子氏の講演を開催し、美術的な視点で障害のある作家が作った作品を捉える考え方について学んだ。②10月に開催した「生の芸術 Art Brut 展覧会vol.4」は、行政、関係団体、福祉事業所等に呼びかけ、述べ80名のスタッフで設営、受付、撤収等の運営を行い、OJTで展示、運営の技術を学び合った。③また、県外研修には、他の法人スタッフにも声をかけ同行し、県内全体の芸術活動支援の質が高まるよう努めた。

④九州障害者支援施設協議会の研修プログラムの一部として、展覧会観覧を組み入れ、九州の福祉施設職員に、芸術活動支援の取り組みと人材育成の啓発、地域資源（美術館）の活用を伝えた。同時に熊本の作家の作品を発信することができた。⑤九州ブロック支援センター主催で、熊本にて「障害のある人たちの表現活動における著作権セミナー」を開催。当センターは県内広報に努めた。熊本の作家、支援者が多数参加し、Q&Aなど分かりやすい研修会、その後の情報交換会も好評だった。

（ウ）関係者のネットワークづくり

これまで構築してきた会員ネットワーク（24法人、160名）に加えて、事業の認知度が高まるとともに、連携・協力事業を通じたネットワークの広がりも起きている。

このネットワークにより、熊本地震からのまちなか復興を目指す「くまもと・まち魅力向上協議

会」と協力し、地域共生社会の浸透に向け、障害のある作家の芸術作品を熊本市の中心市街地に展示した。

また、これまで県内で開催できていなかった天草地方での移動美術館が実現できた。福祉、教育、商工関係者の協力を得て、多数の来場と反響があった。さらに、今年度は九州ブロックの研修や展覧会があり、他県の担当者とも情報交換できる関係性を築き始めている。

（エ）発表の機会の創出

県立美術館本館で開催の「生の芸術 Art Brut 展覧会vol.4」（12日間、2,056名）では、多くの方にご来場頂き、作家への応援のメッセージや作品に対する衝撃、感動の声を数多く残して頂いている。

また、本展覧会場まで足を運ぶことが難しい方にも、障害のある作家らが生み出した作品を鑑賞する機会となるように、「アール・ブリュット移動美術館」を県内各地で開催した。本年度は天草市で開催し、2日半で329名の方にご来場頂いた。天草は、昨年度初選出された後、展覧会場に来る途中に倒れ、亡くなられた作家（濱大生氏）の出身地で、その方の作品も特別展示した。

そして、本年度は障害のある作家の芸術作品をまちづくりに生かす取り組みを行い、上通・下通のアーケードの中央に作品を展示した。買い物や食事でまちに来た人にも、作品の持つ魅力は伝わり、作品を通した作家とまちの人々のコミュニケーションが生まれた。関係者や支援者を超えて、道行く市民に作品を伝える機会となった。

（オ）情報収集・発信

展覧会場にアンケートを設置し、作家・作品の推薦協力を求めており、その情報を元に毎年新たな作家が生まれている。また、ホームページ上や会員ネットワークでも情報を収集し、本年度は新たに7名の作家を発掘し、展覧会以降も数件の情報が寄せられている。

ホームページやネットワークを活用して、展覧会情報や研修情報を収集し、36件の情報発信を行った。

展覧会、移動美術館開催前には、プレスリリースを行い、直接報道機関を訪ねて内容を伝えるなどを加えた。事業に関する4回の新聞報道と3回のテレビ放送、1回のラジオ放送は、地域における障害者芸術活動への関心を高めた。

（カ）成果のとりまとめ

年間事業の報告書を取りまとめた冊子を作成し、関係機関に配布する。また、展覧会会場等で来場者記載のアンケート701件は、一覧にして作家・支援者に届け、さらなる創作意欲と支援者のモチベーションにつながった。70件を超える相談と対応については、整理して保存し今後の相談支援のノウハウとして蓄積していく。

③年間スケジュール（研修や展示会等の実績を記載）

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人材育成			講演会（真武氏）				ギャラリートツアー（2） スタディツアー（12）	全国研修（1）	九州ブロック研修（8、12）		九州ブロック研修（3）	事業所訪問（12） 九州ブロック研修（16）
発表等の機会の創出	移動美術館（8～9）		まちなか作品展（9）下通 （9～16）上通	株式会社風雅店舗内に展示 （7／12～9／7）	移動美術館（県庁、9～22）		展覧会（20～21） 移動美術館（20～21）	移動美術館（30～12／2）			移動美術館（14～15） 九州ブロック展示（27～3／3）	
訪問調査等	調査活動	調査活動	キュレーターによる調査（15） 調査活動	キュレーターによる調査（17～18） 調査活動	調査活動	調査活動		調査活動	調査活動	調査活動		
その他			会議		会議	展覧会の準備広報 出雲展へ出品協力	九州ブロック会議（18） 全国会議（31）		会議		九州ブロック展示協力	全国報告会（5） 九州ブロック会議（11）

④本事業に関わる第三者評価について

(1) 評価方法

アンケート：展覧会、移動美術館開催時に、来場者アンケートを行い、作品への評価と、事業の効果を観察した。また、②県内意見交換：作家・家族、施設・学校等の支援者、アール・ブリュット パートナース熊本関係者（県市行政を含む）と意見交換を行った。③県外意見交換：芸術活動支援の全国連絡会議、九州ブロック連絡会議等で事業を報告し、意見交換を行った。

(2) 評価

①展覧会アンケート（県立美術館558件、熊本保健科学大学42件、天草教育会館101件）より

○作品から出てくるエネルギー、美しさ、丁寧さ等々に圧倒されます。作家さんたちの素晴らしさが表に出ていて、社会に訴えかける力があると思います。展示の仕方も見やすく良かったです。

○募金箱設置をお願いします

○切り絵を長年しておりますが、皆様の感性の高さに感銘しました。構造から色付けまで、皆様になったつもりで一生懸命考えながら見せて頂きました。私の切り絵にも応用させて頂ける所も多々あり感激いたしております。87才ですが人生に御縁が有りましたら、来年も来て勉強させて頂きたいと思いました。

○いろいろな年代の方の作品があり、作品もおもしろいとストレートに感じた。

○今回も楽しみにしていました。毎回やさしさと強さを感じます。もっと多くの方、多くの作品を希望します。ありがとうございました。

○若い作家さんも育ておられ、このような展覧会の成果だと思いました。

○作ったものでない、生成したものの新鮮さと恐ろしさ。

○I found this exhibition amazing. The colors and shapes are so powerful and they transmit so many emotions. I'm very happy I could see it Thank you !

○新しい作家の方々の作品が展覧会の幅を拡げ、また継続して選ばれている作家の作品の深まり、進化を感じました。

○新しい人の作品を見させて頂きました。ずっとこの展覧会が続いていくことを願っています。

○お城まつりに来て美術館前のポスターに惹かれてふらっと立ち寄りました。思いがけず、すばらしい世界が広がっていて感激致しました。みなさんの絵を拝見していて、普段自分は頭ばかり物を見ていて、心を使って対象を見ることをしていないのだと気づかせて頂きました。

○皆さんの作品がすばらしく、おどろきでいっぱいです。”ArtBrut”を初めて見たのは「ヘンリー・ダーガー」（資生堂美術館）東京でした。熊本の皆様のますますのご活躍を期待します。

○放課後デイサービスのスタッフです。作品を見て感動しました。子供達の才能を伸ばしていけるような活動をこれから行っていきたいと思いました。

○生きるという事は、こういう事なのかと改めて感じさせてもらえる作品ばかりだと思います。美術芸術に今後も是非没頭して下さい。

○初めて障がいのある方々による絵を拝見しました。純粋な気持ちや情熱を感じました。熊本だ

けでなく、宮崎県や延岡、日向などでも開催してほしいです

○体の中から生まれた線や色、その行いなどは素晴らしい。僕も表現のその原点を学びたい。

○ここに来る前に違う所で絵を見てきたんですけど、こっちの方が直に視覚を刺激してくれて楽しい。自分が楽しいことをして他の人も楽しい気持ちにできるなんて、いいことばかりですね。

○作品をもっとグッズ化してほしいです。

○見たものをそのまま素直に描写する、自分の思いを自由に具現化されている作品が多く見られ、芸術の本質を垣間見ることができた。無題や抽象的なタイトルにすることで高度に受け手の想像を掻き立てるような作品に深い感銘を受けた。

○作家さんもさることながら、キャプション、説明作成の事務局様のおかげで、より楽しめた。

○初開催の天草移動美術館では「どれも心打たれる作品ばかりでした。色は心を和ませると常々思っております。美術館のない天草で良い機会に出会いました。」という評価を頂いた。

②県内意見交換より

○作家の相談を受け、作家と行政の間に入り、調整役として契約書を作成した際に、行政が障害のある人々を、著作権を有す作家として向き合うことを考えるキッカケとなったという反応があった。

○A市教育委員会担当者は、2次利用に関し、作品の使用料が発生することを知り、障害のある人々の自立に向け、大切なことを学んだと評価された。

○作家より、研修を受けて著作権のことを考えるようになり、2回目の研修で前より分かった、との言葉を聞いた。

○作家家族より、当センターの存在は身内のように感じる。何でも相談できるのが心強いとの感想を頂いた。

○大学関係者より、学際で身近に展示をして頂き、医療、福祉を学ぶ本学の学生が作品に心を打たれた。人間観が広がると感謝している、との言葉があった。

③県外意見交換より

○九州ブロック会議で他県の支援センターから、作家の発掘の難しさ等の課題に関し、熊本の登録制（支援者・作家）は有効であるという評価を得られた。

○広い範囲への広報力と、連携する人々が多いことを評価された。

熊本 社会福祉法人愛隣園

障害者芸術文化活動支援センター@熊本

実施団体概要

1950（昭和25）年創設以来、児童養護、軽費老人ホーム、特別養護老人ホーム、障害者支援施設の4カ所の運営と在宅サービス15事業を行う法人です。障害者支援施設「愛隣館」は、地域に住む障害のある作家の支援をきっかけに、県全域で障害者芸術活動支援ネットワークを築くため、2014（平成26）年に市民団体「アール・ブリュット パートナーズ熊本」を創立。県や市、福祉・教育・文化関係機関、企業などと連携し、美術館での展覧会や県内各地での移動美術館を継続開催しています。過去4年間で約1万3000人が障害のある作家の作品を鑑賞しました。障害のある人たちが担う新しい芸術文化の振興と、認め合いともに生きる社会の実現へ歩みを進めています。

都道府県の現状と課題

県内在住もしくは事業所利用の障害のある人を対象にした「くまもと障がい者芸術展」が23回目を数えるほか、特別支援学校の合同展がまちなかで開催されたり、当法人主催の4回目の展覧会が県立美術館本館で開催されたりするなど、障害のある人たちの芸術のおもしろさや豊かさが地域社会に伝わり始めました。相談支援や、当センターと美術専門家な

どによる作品を大切にしたい発表の場があることが少しずつ周囲に浸透し、期待が寄せられています。今年度は「作品を評価する美術専門家と福祉・教育関係者をつなぐ機関との連携の充実」「障害者支援施設や特別支援学校、家族、支援者のネットワークづくりと研修」を深めていくことを課題として捉えました。

今年度の取り組み概要とねらい

①身近な相談支援機能、②作家が制作実演などで参加する展覧会とまちなかや広域での展示、③地域に根ざした多分野と連携する支援ネットワークの継続、④九州をはじめ全国と連携した支援方法や法律に関する研修と人材育成。この4つを重点に取り組みました。そして「障害のある人と支援者のエンパワーメント」「作家がそれぞれの環境で認められ、生

きやすくなること（承認・社会参加）」「障害のある人の力と個性が見え、障害に対する正しい理解を深め、差別解消につながること」「芸術活動支援において作家の表現とその過程を大切にする方法が、特別支援学校や福祉施設における支援の質の向上（個別支援の浸透と支援の連続性）につながることを目標としました。

今年度事業の成果

熊本県立美術館本館での展覧会と、大学や中心市街地、離島の連なる天草地方での移動美術館により、のべ4200人超が作品を鑑賞しました。寄せられた感想は件。鑑賞風景は来場者が作品と対話しているようであり、作家や関係者に喜びと制作意欲をもたらしました。作家の依頼を受けて、当センターが企業や行政との連絡調整を行い、店舗展示、行政

冊子の表紙、ポスター掲載などが実現。報酬を伴う契約書の作成などの支援で家の自立と社会参加を促進しました。新聞4回、テレビ3回、ラジオ1回の情報発信などで障害のある人の芸術活動への関心を高めました。来年度に向けてコラボレーションの提案や全国大会での展示などの連携依頼があり、芸術活動支援の普及が実感できました。

地域資源の連携ネットワーク型障害者芸術活動支援モデル

「熊本方式」2018でまちづくり貢献

日程 | 2018年6月9日(土)～15日(金) 会場 | 熊本市中心市街地 上通・下通商店街

取り組みのねらい

熊本地震からの復興をめざす「くまもと・まち魅力向上協議会」と協力し、地域共生社会の浸透に向け、障害のある作家の芸術作品を展示。買い物や食事でもちを訪れた人に、作

品のもつ魅力を伝え、作品を通した作家とまちの人たちのコミュニケーションが生まれることを目標にしました。

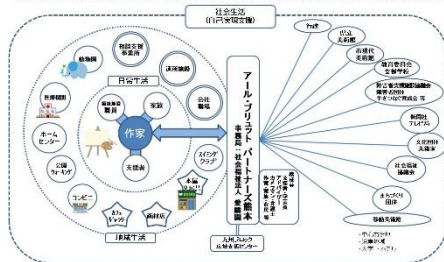
実施内容

熊本市の中心市街地にある上通・下通商店街のアーケード中央に、障害のある作家の作品を展示しました。まちづくり団体と連携したショーケース内などでの作品展示を1日行った後、市内で「おしゃれスポット」として話題の書店のショーウィンドーでの展示を1週間実施。途中、同店のショーウィンドーは西

日が当たることがわかり、遮光ガラスに替えて継続。そのほか安全面に配慮したスタッフ配置など、作家と作品に敬意を表す展示になりました。また現地で作家が制作の実演を行ったところ、たくさんの買い物客が足を止め、その様子に見入っていました。



地域資源の連携ネットワーク型障害者芸術活動支援モデル「熊本方式」2018
※「熊本方式」とは、作家を中心に、福祉、教育、芸術、企業、行政等が中心団体として連携し、積極的に働き、障害者芸術活動を振興していくモデルです。作家の家族等も輪に加わり、互いに刺激、あいあひあつて行く(交互作用)を目指しています。作家の自立・社会参加と共に、芸術でつながる地域共生社会が目標です。



左 | 離島連なる天草地方で移動美術館 右上 | ピアサポートでまちづくりに貢献 右下 | 障害者芸術活動支援モデル「熊本方式」2018

成果

商店街の若手後継者や大学研究者らによる共生のまちづくりが進むなか、障害のある人たちの芸術がその核を担いました。鑑賞目的以外でもちを訪れていた幅広い層の人たちが、作品の魅力にはまり、作品や作家の制作ライブを通して自然なコミュニケーションが生まれ、地域の人たちからも「この取り組みを継続してほしい」という声が上がりました。障

害のある人たちの芸術に関心のなかった人たちが、関心があっても接点のなかった人たちが、その芸術に触れるきっかけとなり、後の展覧会や移動美術館への動員にもつながりました。まちなかでの事業は人が集いやすく、作家や家族、支援者同士のネットワークも深まり、相互にサポートし合うピアサポートの関係性も強化できました。

4. 生の芸医術 Art Brut 展覧会 vol.4 出展作家紹介

松本 寛庸 (Matsumoto Hironobu)

1991年生まれ、山鹿市在住



松本が描く対象には、何らかの共通点が見受けられる。天体や地図、乗物、建造物、戦争など、個の水準を超えた拡がりをもつそれらは小単位の集積からなっている。具体的な構成要素が細かく描写されているものもあれば、多色の小さな区画がモザイク状に並ぶものもある。「世界連合艦隊」や「地球の仲間」は前者であり、後者には、建造物が中央にある「ムーンナイト」の2点がある。これまでは背景が埋め尽くされた作品が多かったが、最近、空白の背景に、体中が細かな紋様で覆われた2体の動物がいるシリーズが加わった。絶滅した種である恐竜と、その進化した姿といわれる現生動物を並べたものである。遠い世界に目を向けてきた松本の関心は、遥か遠い時代と現代を結ぶ悠長な時間にまで広がってきた。

3歳で高機能自閉症と診断され、支援学校卒業後は一般企業に就職した。海外出展の機会も多く、去年は仏ナントで開かれたアール・ブリュット展に作品を送った。

藤岡 祐機 (Fujioka Yuuki)

1993年生まれ、熊本市在住



300円程度のはさみで、広告紙や色紙に1ミリにも満たない櫛の歯状の切れ込みを入れていき、「美術的な分類すら難しい」という比類なき作品を生む。切れ込みは、自然とらせん状になり、紙の裏表の色が交じり合っ、立体感も加わる。年々細くなっていて、近作は0.1～0.2mmほどしかない。最後に紙にななめの切り込みを1カ所だけ入れて作品が完成する。

自閉症のため、一度も言葉を話したことがない。小学1年で初めてはさみを持ち、寝る時も手放さなかった。毎日5時間18年間、切り続けた時間は3万時間を優に超える。気の遠くなるほどの積み重ねが、誰にもまねできない道を切り開いてきた。

「アール・ブリュット・ジャパン展」(2014、スイス)、「すごいぞ・これは!展」(2015、埼玉県立近代美術館)ほか出展多数。東京芸大の「藝大アーツ・スペシャル」のパンフレット表紙も飾った。

荒木 聖憲 (Araki Minori)

1994年生まれ、玉名市在住



極小の紙片や糸のように細いこよりで描くちぎり絵は、猫の毛1本1本、ヒマワリの種の1粒1粒まで描かれていて、驚くほど繊細だ。まるで油彩画のように、厚みや質感まで紙だけで自在に表現している。

つまんだ色紙を爪を使って切り出し、画用紙にのりで一つ一つ貼り付けて作り上げていく。1作品が完成するまで1～3カ月かかるという根気のいる作業だが、仕事がある平日でも毎日6時間は没頭する。

軽度の自閉症。たまたま見たテレビで見た“放浪の画家”山下清にあこがれて、中学時代に独学で始めたが、すぐに頭角を表し、支援学校高等部の時には展示会も開くようになった。卒業後は風景画にとどまらず、抽象的なデザインにまで幅を広げ、こよりをレース編みにするなど新たな表現手法も次々に生み出している。

北島 宣夫 (Kitajima Norio)

1975年生まれ、宇城市在住



「赤が好き」と言う。水彩やアクリル絵の具で、画面いっぱいに鳥を表現する。トキのくちばしや脚、カルガモ、鳥を彩るツバキの花…作品の多くに印象的な赤がある。小学1年の頃から、自宅ですべて1枚のペースで描いてきた。

4歳で自閉症と診断された。言葉が出ないことを心配した母親が、「プールの色は水色」などと色を塗ることを会話のきっかけにしたことが、絵を描き始めた原点という。その後、鉄塔が好きで高台へ散歩に連れていってもらうち、そこから見える列車に興味に移った。列車は鳥の名前が多かったため、鳥が大好きになり、今につながっている。

2001年「日本児童・青少年バリアフリーアート英国展」出展。

2011年「スペシャルオリンピックス夏季世界大会」(ギリシャ・アテネ)では、陸上3000メートル走で金メダル。

駒田幸之介 (Komada Konosuke)

1988年生まれ、熊本市在住



駒田はボールペンや細いマーカーやクレヨンなどで画用紙に線を引いていく。線は何かの形を描くのではなく、ただひたすら同じ方向に引かれ、画面が埋められていく。いつしかその線は塗り重ねられ、四角い形を作っている。すると今度は線の向きと色彩が変えられ、90度交叉した形で新たな四角形が塗り重ねられる。こうしてできあがった画面には、色違いのいくつかの四角形が、並んだり入子になったり、重なったりしている。ときには大きな余白もあらわれるし、中が塗られていない四角い線で囲まれた枠も見える。まれに風景や花を描くこともあるようだが、それらにしても線で塗りつぶされて形が見えてくるものである。3歳で自閉症症候群と診断された。城南町の生活介護事業所に通い、絵を描いて過ごす。高速道路が好きだという駒田は、一心に線を引く手を止め、突然、立ち上がり部屋の窓から遠方の高速道路を眺める。そしてまた画面に帰っていく。

菊川 豊 (Kikukawa Yutaka)

1945年生まれ、菊池市在住



主にクレヨンで描いた力強い独創的なイメージは「自分の頭の中に出てきたもの」と言う。ピカソのようなカラフルな抽象画から、靴墨だけで描いたモノクロの犬まで作風は幅広い。一度完成した絵に切り抜いた紙や枯葉を貼って修正を加えるなど発想の趣くままに仕上げていく。墨汁をつかった影絵のような樹木、黒白の濃淡で作り出す山水は最近よく見られるようになった。

中学を卒業後、家業の青果店などで働き、50歳を過ぎってからグループホームで暮らしている。絵を描き始めたのは64歳の時で、施設のレクリエーションがきっかけだった。最初は乗り気ではなかったが、楽しさに目覚めると自室で創作に没頭するようになった。2015年に熊本県立美術館分館で開催された第1回アール・ブリュット展覧会に作品が選出されたことで、さらに創作意欲が増したという。

鍬崎 勝芳 (kuwasaki Katsuyoshi)

1985 年生まれ、菊池市在住



鍬崎の絵を見たとき、完璧な抽象絵画だと思った。幾何学的ではないが単純な形態が、多くは同心四角形や矩形の併置として描かれている。それらがモノクロームや多くても 2-3 色という色数少ない画面に横たわっている。題名を見ると愉快的気分になった。「柿」「ピンクのコップ」など、食べ物か飲食物に関係あるものだったのだ。「柿」はオレンジ色だし、「ピンクのコップ」もまさにピンクが色面の大半を占めている。形は対象と全く無関係だが、色彩は対応しているらしい。ピンクやオレンジは、題名のつけられていないその他の作品にも最も多く使われているお気に入りの色である。ピンクやオレンジの周辺や背景に紫や赤、緑など思い切った配色がおかれて、鍬崎の洒脱な色彩感覚が表れている。施設の説明では鍬崎は「形や物にとらわれず、自分の感性で見たものを描く」のだそうだ。

大林 健吾 (Oobayashi Kengo)

1987 年生まれ、菊池市在住



形を結ばない線描と筆触からなる大林の絵は、特定の対象を捉えたものではない抽象絵画である。ただし出品作 3 点には「カンとビン」「ユリ」「お菓子」と具体的なものの題名がつけられている。紫と黄色が主調となる 1 点は花の色を、また淡いオレンジが目立つ 1 点は果物を連想させる。しかし題名とそれらの色彩は一致しなかった。おそらくイメージの中には対象物があり、絵になる過程で色や形といった具体性が消されていくのだろう。塗られた部分と余白との均衡が快い感覚を誘う。小さな円弧を描いた線に混じって、文字とも見える形が散らばっている。解読できるものではないが、まるで擬声語か擬音語のように画面から囁きが聴こえてくる。母親が大好きな大林は「おかあさん、おかあさんがええもん」とつぶやきながら絵を描いているらしい。描き込まれた言葉は母への秘密のメッセージなのかもしれない。

平山 由美 (Hirayama Yumi)

1961年生まれ、菊池市在住



明るい色彩に力強い線で描き出される平山の画用紙には、犬や猫、ウサギ、羊、鳥などの動物ほか、卓上のマグカップやボトル、ときには紋様のような抽象形態が並んでいる。のびのびとした生命力溢れる表現である。平山は早くから絵を描く機会が多かったが、以前は黒が基調で、背景や対象も黒く塗り潰しているほどだったという。色彩豊かな方向へ変化したのは、施設での活動の時間として絵画に向かうことになってからである。旺盛な制作欲で休日にもクレヨンを手にとり描くことも多い。今回は多くの作品の中から特に目を引く正面を向いた犬や猫の像を集めてみた。通常は横向きに捉えられる動物の肢体を正面から見据えると、まるで人物の肖像のように、心理の機微さえ見えてくる。背景の処理にも独特の感覚が表れている。

内野 貴信 (Uchino Takanobu)

1974年生まれ、熊本市在住



内野が様々な大きさに切ったダンボールの断片に描くのは、ほとんどが日常生活の中で見ることができるものである。食べ物や、身につけるもの、草花や樹木などが見たままに写実的に描かれるのではない。マンガや広告のサインのように単純化されている。ものを見ながら写生するのではなく、イメージの中にあるものが絵になるのである。背景にはいつも抽象絵画のような色面分割が施されている。そして裏面に自ら付けたタイトル文字が大きく書かれている。「YUBI ATTI」「そらまめ」などはそのものズバリ、「つけて食べるそうめん」にはなるほどと思わされる。「PANと割れた風船の絵です。」は針で刺し割れた風船を描写したもの。「妖怪」や「サーカスの空中ブランコ」には人型が書かれているが、単純な表現でも動きや気分がよく表わされている。スニーカーや石にも彩色し立体に手を染めることもある。見る人は内野のイメージの遊びの世界へ誘われる。

本田美奈子 (Honda Minako)

1956年生まれ 熊本市在住



本田のスケッチブックには色とりどりの花の絵と文字が描き込まれている。季節や年月が冒頭に書かれているので、絵日記なのかと文字に目をやると、それらが植物の名称や種苗の注文記録であり、また生育の特徴がメモされているのだとわかる。花の描写には植物図鑑のような写実性はないが、書き添えられた植物の名称はたいへん専門的なものらしく類別されている。庭園の栽培計画が緻密に記されているのだ。本田独自のこの計画書に描き込まれた図像は二種に大別できる。種別化はされていないが一目で花とわかる図像の列、そして植物の形態とは打って変わって色分けされた柵目からなる構築物の群である。性格は異なるが、どちらの図像にも日付や植物名が書き込まれているので、同じ目的のために描かれたのだろうか。花の姿はなく抽象形態のように見える柵目の積み重ねも、あるいは庭園の植物配置図であるのかもしれない。

岡井紀代子 (Okai Kiyoko)

1951年生まれ 熊本市在住



生き物も食べ物も、岡井の手にかかればすべて、色彩豊かな装飾品となる。そのままTシャツやアクセサリー、バッグなどのデザインに活かされそうだ。虫や魚や獣たち、果物や草花まで対象物に選ばれたものは、すべて本物の表面とは異なる配色で塗り分けられる。それらがおかれた背景は空白の場合もあり、色違いの色面に塗り分けられるものもあれば、対象物と同じように縞々や点々で飾られることもある。たとえばシロクマは白ではなくて淡いオレンジ、青、緑の3色に分割されている。岩の上に構えるヒョウは、獰猛さが全身ピンクの中に隠されている。空白の画面上部に正面で立つシカも、お面をかぶったような緑の顔である。クリスマスのトナカイやてんとうむしは、岡井の画面にしばしば登場する色とりどりの斜めストライプで飾られている。以前は農業班にいて野菜を育てていたという岡井は今では小さな筆で丹念にアクリル絵具を塗り分けることに専念している。

森山茂 (Moriyama Shigeru)

1962年生まれ 熊本市在住



一度見たら忘れられないような同じキャラクターが、さまざまな色で描かれて、スタンプのように画用紙を埋め尽くしている。キャラクターは職員の間で「ブルブルおじさん」と呼ばれている。自発的に描くのは、このブルブルおじさんだけ。約100個のギンナン、一つ一つに描いたこともある。

施設の秋祭りで、かつて、このキャラクターの手づくりTシャツを販売したところ、一番人気だったという。「森山ワールド」のファンは多く、インディーズバンドのCDジャケットとして採用されたこともある。

制作は、一人静かな場所で、黙々と取り組む。

山口 秀隆 (Yamaguchi Hidetaka)

1982年生まれ、宇土市在住



通所施設への行き帰りの朝夕2回、自宅近くの駅に必ず見に行くという大好きな列車を、自分で撮影した写真や鉄道雑誌を見ながら、プラスチック色鉛筆などで画用紙いっぱい丹念に描く。全国各地の新幹線から豪華特急、ローカル線まで各車両の特徴はもちろん、敷石一つ一つまで描写した作品からは、鉄道への情熱があふれている。背景の空は、赤や黄色、紫、ピンクなどの色をモザイク模様のように重ねた夕日で染める。理由は「夕日が好きだから」と単純明快だ。迷いなく好きなものと好きなものを詰め込んだ作品は、気持ちいいほどの自分だけの世界。

動物もよく描くようになったのは、熊本市動物園の写真集を贈られた昨年からである。動物たちの背景にある空や地面の描き方が、電車シリーズの細部の表現に似ているのがおもしろい。電車を描くことが減ったわけではなく、「まだまだ描きたい列車がある」という。

原 三保子 (Hara Mihoko)

1956年生まれ 熊本市在住



ボールペンで一面に描込まれた震えるような線が建物や動物たちを形づくっている。クレパスで部分的に彩色されているものあり、僅かな余白を残して全体が数色に塗り分けられたりしているものもある。建物はどれも熊本城なのか、城郭のような階層からなっている。動物の方は象や犀らしき実在の動物もいれば、想像上の幻獣、珍獣も混じっている。震えるような線といったが、実は線はゆらゆらしているのではなくて、短い単位の線が平行したり、小さな四角形に画割りされたりしているのだ。城の建物ならば、それらは石垣の構造を示しているのだとわかるが、動物の身体も同じ構造を持って描かれている。原は写真や動物図鑑、恐竜図鑑を見て描いている。描かれているうちに見本から遠く離れ、想像力を膨らませた作品が次々と誕生してきた。

野尻 三正 (Nojiri Mitsumasa)

1947年生まれ、菊池市在住



農作業や園芸が好きで、畑で草花を見ながら時間を過ごすことが多いという野尻の作品は、決して植物の写生によるものではない。隙間なく小さな花が描き込まれた画面には花の宇宙と言ってもよいほどに、草花で埋め尽くされた世界がある。図案化された花や葉や茎の隙間にもぎゅーりと小さな点が描かれている。余白に打たれた点々は花の種子や花蕊なのだろうか。淡い色調に塗られた可憐な花の群れを描いたものが野尻の代表的な作品になると思われる。だが、ほとんど植物を対象にした野尻の作品を並べて見ると、小さな花の集まりは次第にズームアップされ、拡大された花の描写はより大胆に強い輪郭を持ったものとして表わされるのがわかる。対象に近接した視点から捉えた図は、淡い色調から一転し黒々と強烈な線で囲まれている。今回の出品作は、そうしたズームアップの最終段階にある異色作となっている。

山品 聡美 (Yamasina Satomi)

1967年生まれ、山鹿市在住



地名や人名が繰り返し書かれて列を形成していると、それは詩の形式か新しいタイプの書道かとも思わせる。文字は改行ごとに一字下げられ、列は微妙に斜行している。意図的に図案化されたもののように見える。人名は、山品が所属する施設のスタッフや共に入所している人たちの名前らしい。地名についても山鹿の文字が見えるので身近なものかと思えば、そうではなくて青森、秋田など遠い所の地名が並んでいる。県の名前を練習している時期があって、北海道から沖縄まで、順に書かれたそうである。お習字の稽古として文字は繰り返されていたのだ。建物や戯画化された人物像、草花の横に書き入れられた文字は、描かれた対象や場所を示す記録である。スケッチブックに日記のように鉛筆で描かれた家や人物はマーカーなどで鮮やかに彩色されている。

梶山 亮祐 (Kajiyama Ryousuke)

1992年生まれ、熊本市在住



2歳のときに自閉症と診断される。2011年に支援学校高等部を卒業し、現在は生活介護事業所に通っている。音楽が大好きで、絵を描くときもポータブル・オーディオ・プレイヤーで音楽を聴きながら、また歌いながら絵を描いているそうだ。梶山は大判の紙に文字や数字をぎっしりと詰め込んでいく。意味不明な数字や記号の組合せに混じって判読可能な言葉も浮かんでいる。文字や数字は、たいてい枠で囲まれているので、画面の中に無数の枠がひしめきあうことになる。枠は衝突しあい重なり合っている。ところどころに色が塗られている。街にあふれる広告やサインがフラッシュバックしてダブっている感覚である。この色とりどりの枠のひしめきあいの中から、街の雑踏や路上に流れる音楽が聴こえてくるようだ。ただし梶山は街を歩いて眼にした印象を描いているのではない。ただ知っている言葉や記号で白い画面を埋めていっているのだ。

曲梶 智恵美 (Magarikaji Chiemi)

1981年生まれ、熊本市在住



十代以来、油絵制作や手芸、園芸など手作業が中心の趣味の活動に力を注いできた。主治医の進言もあって、言語によるコミュニケーションよりも創作を通して自己表現を行うようになった。手先の器用な曲梶には、精緻にイメージを積み重ねたコラージュ作品が多い。それも麻紐を幾重にも組合せて盛上がりのヴォリュームを出すものと、それよりも平面的だが、リアルな花々が画面に充満しているものという2種の作品群がある。前者では色とりどりの上向きU字型や渦巻きのテープによって動力感が表現されている。自身で撮ったものやインターネットから拾い出した写真を用紙に印刷し貼り合わせた後者にはみずみずしい生命力が溢れている。このほかビーズ細工や刺繍も手がけ、展覧会出品や受賞歴も多くある。

岩上 万桜 (Iwagami Mao)

2006年生まれ、熊本市在住



万桜さんには3つの作品群がある。ときには自画像でもある女の子の絵、植物や野菜を描いたもの、そして塗り分けられた多色のモザイクの3種である。よく見ると、それらの構成には共通点がある。背景や描かれた対象の内部が小さな形で埋め尽くされているのだ。「そら豆」の内部にはグリッド状に線が引かれている。「わたし」や女の子たちが描かれたものの背景にはハートの行列の隙間に、やはりグリッドが表れている。ふだんの絵画制作では、モザイクのように塗られたグリッドが一番多いと聞いた。人物や植物の形態がグリッドの中から浮かび上がってきたのかとも思わせる。万桜さんは、生後まもなくダウン症の診断を受ける。小学校の支援学級に入学した頃から文字や絵に関心を示し始めた。絵の中に文字や数字、自分と友人の名前、そして先生と一緒に考えたという俳句のような言葉も書き添えられる。現在、支援学級に通う中学校1年生である。

荒川 琢磨 (Arakawa Takuma)

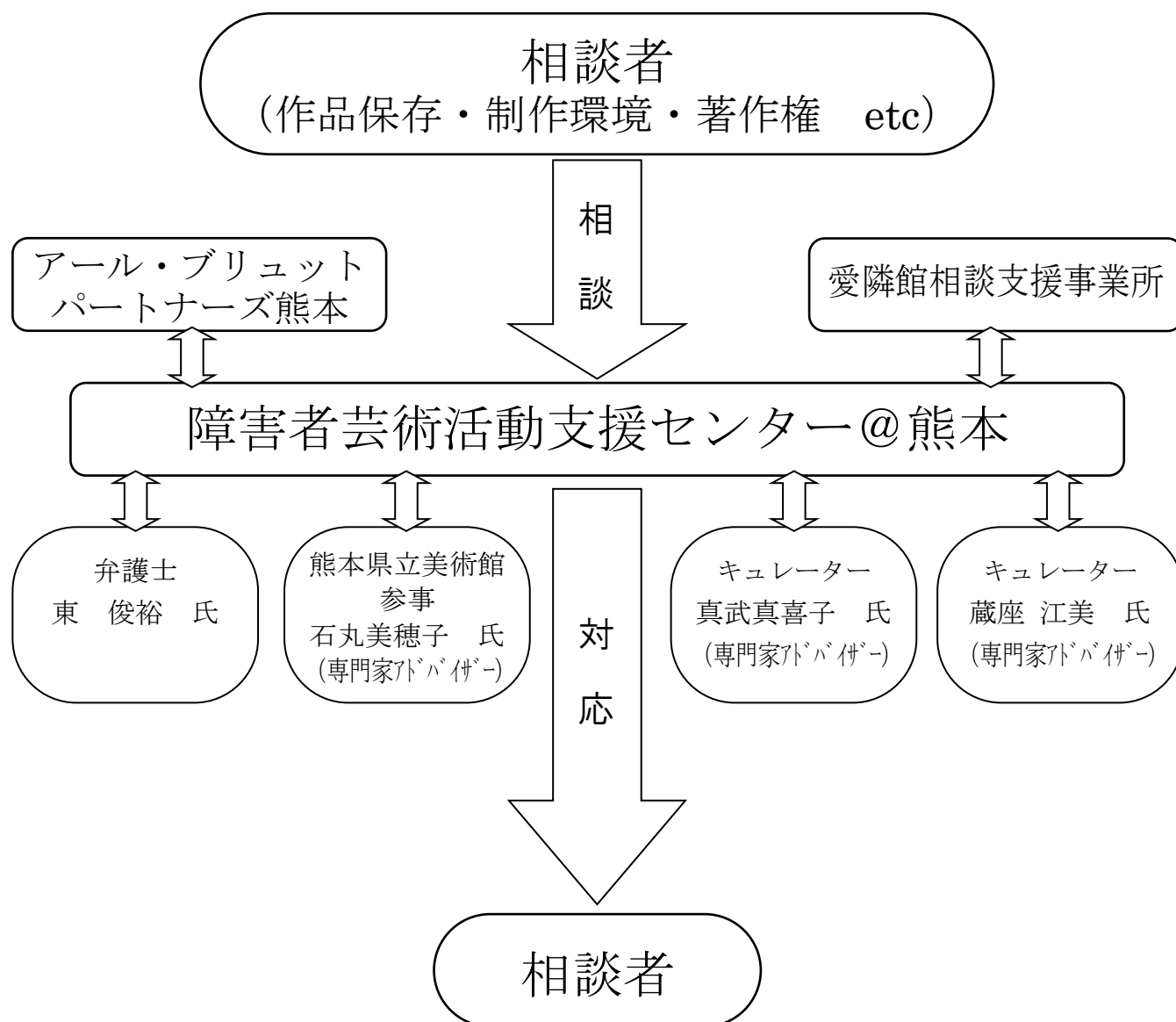
2009年生まれ、熊本市在住



アール・ブリュット・パートナーズ熊本の展覧会をこれまでにご覧いただいたご家族や関係者から、展覧会に参加できたらという推薦をいただくことがある。琢磨くんはそんな中から有望株として出現した一人である。琢磨くんが描く文字や数字や図形は、すべて琢磨製キャラクターに変身する。アルファベットの文字には手や足がつけられいろいろな動物になる。数字はそのままの形で、口を大きく開いたり閉じたりしたワニや蛇の様々なポーズとなる。国産や輸入車も混じる有名な車種のエンブレムも擬人化されて動き出しそうだ。地図に至っては、国土の大きさや国境も、自在に変化して、世界中どこにもなさそうな国が出会っている。時計の12の目盛りには十二支の動物たちがピッタリとおさまっている。3歳の時に自閉症スペクトラムと診断を受ける。就学前からお絵かきが大好きで、鉛筆だけで描かれた琢磨ワールドが毎日誕生している。

5. 相談支援の概要

相談支援の流れ



平成30年度実績

・連絡調整件数

情報提供、連絡・日程調整 メール272件 電話約300件
会員メール（情報発信 36件） その他

・相談件数 78件 （作家・家族・支援者 等）

芸術活動等に関すること、展覧会・移動美術館に関すること
著作権に関すること

相談支援の概要（抜粋）

	相談	対応
1	熊本市内にアート活動を中心にした事業所を立ち上げようと考えているので、アート活動支援を実践している事業所の情報を教えて欲しい。	アール・ブリュット パートナース熊本に所属している団体のほか、事務局で把握している情報等を伝えた。
2	6月に熊本市の中心地で障害のある人々らの作品を展示することで、熊本地震からのまちなか復興に協力して欲しい。	打ち合わせを重ね、「くまもと・まち魅力向上協議会」と協力し、熊本中心地での展示を開催した。
3	作家家族より、チャリティ団体より作品をチャリティに出さないかと連絡があったが、詳細が分からないし困っていると相談があった。	アドバイザーに相談したところ、原画販売もしていない状況でチャリティに出す必要はないとのことだったので、家族に伝え、安心されていた。
4	登録作家より、就労先の企業が店舗で作品を展示したいと言っているが、調整役に入りたい。	先方の担当者と連絡を取り、契約書の作成から店舗展示まで事務局員で行った。
5	厚労省障害者芸術文化活動普及支援事業について、取り組みを知りたいので報告書を見せてもらえないかとの問い合わせがあった。	口頭で事業の説明をしたうえで、ホームページ上に報告書のデータを公開していることを伝えた。
6	厚労省障害者芸術文化活動普及支援事業未実施県より、どのような取り組みをしているか問い合わせがあった。	ホームページに事業報告を載せていることを伝え、実際に行っている取り組みについて、説明した。
7	県内事業所より、作品の見せ方、製品化について、どうしたら良いか尋ねられる。	キュレーターより、作品制作と製品化は別の話としたうえで、他事業所の取り組みや販売場所について紹介した。
8	行政より、登録作家の作品を庁舎内に展示したいので、借りるための手続きを教えてほしい。	まずは本人の意思を確認し、契約書にて期間、会場、使途、謝金等について、確認することが望ましいことを伝えた。
9	他県施設より、アール・ブリュット展を開催するので、熊本の作家の作品も特別出展して欲しい。	作家に意向を確認し、梱包から配送手続きまでを事務局で行った。
10	県内支援学校より、周年記念イベントを開催するので、卒業生である登録作家の作品をポストカードにして、来賓に配りたい。	提供した契約書を雛形に作家と学校で契約を結び、ポストカードは実現した。

	相談	対応
11	県内支援学校校長先生より、学校に面白い絵を描く生徒がいるので紹介したい。	本会登録から展覧会までの流れを説明し、支援学校とのつながりは大変有難いことを伝えた。
12	県庁担当者より、くまもと障害者芸術展で特別展示する作家について、情報確認の問い合わせがあった。	内容を確認し、返答した。
13	手をつなぐ育成会より、2019年11月に開催される全国大会で、現在建設中の熊本城ホールに展示してほしいとの依頼があった。	会長確認後、了承の旨を伝えた。詳細については、今後打ち合わせの中で決めることとなった。
14	登録作家家族より、障害関係団体の全国広報誌に作家のことを取り上げたいと依頼を受けたので、情報提供をお願いしますとのこと。	写真、文章ともにコピーライトをつけてもらうことを条件に、情報の提供を行った。
15	キュレーターより、熊本での地震を受けて岩手の作家が熊本に絵を送りたいと連絡を受けたが、どこか受け入れ先は無いのか。	幾つか候補を検討したが、作品保存の観点等から愛隣館で引き受けることとした。
16	熊本市障がい者自立支援協議会就労部会で芸術活動支援について、事務局レベルで話して欲しいとの依頼があった。	事務局内で検討し、活動の紹介と報告を行った。
17	登録作家在籍施設より、展覧会で展示した写真や文章を使わせてほしいと問い合わせがあった。	写真や文章にも著作権があることを伝え、引用する場合は、権利の所在を明らかにして使用するよう伝えた。
18	熊本市内の額縁屋から、新しくギャラリーを開設するために助成金を探している。使える助成金がないか情報提供を求められる。	以前、受託した助成金が今回のケースの応募要件も満たしていたため、その情報を含め幾つか助成金情報を伝えた。
19	県内相談支援事業所より、相談支援者の中に芸術活動をされている方がいるので、活動支援について教えてほしいとのこと。	本会の活動について、説明し資料を送付した。その後、当事者にその資料を使って説明したとのこと。
20	作家家族より、作品を買いたいと言ってくれる人が現れた。お世話になっている人なので、額縁代だけでも良いと思っている。	作品として、正当な価値は受けた方が良いことを伝え、売買契約の雛形を提供した。

作品の取り扱いに関して
私たちが大事にしていること

1. 作品の取り扱いに関して

- (1) 作品を借り受ける時には、契約書を作成し、書面による作家の権利保護を行う。
- (2) 作品に保険をかける。(作品展示期間と準備、撤収の期間)
- (3) 作品に敬意を示し、作品を保護する(手の汚れ、皮脂をつけない)ため、手袋を着用して取り扱う。
- (4) 借り受けた作品の保管は、日光の当たらない(紫外線防止)、湿度の低い場所に鍵をかけて保管する。
- (5) 作品移送は、梱包材による作品の保護とともに、保険をかけて実施する。

2. 展示に関して

- (1) 展覧会の展示は、原則としてキュレーター(学芸員等)、専門業者が行う。
- (2) 移動美術館等では、作品の中心部が床 135cm となることを基本に展示する。
- (3) 額装されている作品を展示する場合、高さ、又は額の端を揃える。
- (4) 展示会場内での写真撮影について、フラッシュは厳禁であることを伝える。
- (5) 日光の入る明るい場所での展示は特に配慮し、最短期間に留める。場合によって、遮光ガラスを入れて、作品への負荷を軽減する。

3. その他

- ・展覧会時には、観覧者に感想の記入をお願いし、一覧にして作家・支援者に送る。
(作品と観覧者のメッセージのやりとり、コミュニケーションを重視する)
- ・作家・支援者と連絡を密にし、意向に添う支援を心がける。

7. 展覧会、移動美術館、来館者の感想録（抜粋）

1. 生の芸術 Art Brut 展覧会vol.4 熊本県立美術館本館 総数558件 来場者数2,056名

	内容
1	作品から出てくるエネルギー、美しさ、丁寧さ等々に圧倒されます。作家さんたちの素晴らしさが表に出ていて、社会に訴えかける力があると思います。展示の仕方も見やすく良かったです。
2	松本寛庸さんのどれも線描写で画用紙一杯も感動します。このカラフルでやさしい色で大小を描かれているのに気持ちが洗われる様な気が致しました。小学2年の孫にも見せたい気持ちです。
3	山品聡美さん「あおり」：作品のリズムに風のゆらぎを感じます。 鯨崎さん：今は暖色系ですが、青黒の色の世界と抽象的な画面構成が出来たら将来面白い作家になるかも
4	私もこんな自由な絵が描きたい。心が開放されます。
5	どのアートもどれも一つ一つが丁寧であたたかみのあるアートだなと感じました。また寄らせてもらいます。
6	カラフル、イマジネイティブ、おもしろい、かわいい from China
7	鮮やかな色使い、独創的、圧巻です。切り紙は布の糸だと思いました。
8	ありがとうございました。制作現場のビデオを観たいと思いました。
9	どの作品も新しく、かっこよくて、素晴らしかったです。私も絵を描くのが好きなのですが、「こんな色の塗り方があるのか！」とか「こんな表現の仕方も良いな」とか色んなことを思いながら作品を楽しませて頂きました。次回もあればぜひ見に行きたいです！
10	全て個性的な作品で芸術の秋にふさわしい展覧会でした。大胆な作品もあれば、緻密な作品もあり、でも共通して言えるのは、作者の方が伸び伸びと作品を作っているということ。とても楽しめました。ありがとうございました。次回も楽しみです。頑張ってください。
11	どの作品もデューブツフェに負けないような質の高い作品でした。一人一人がとても素晴らしいです。
12	テレビで見て、興味を持って来ました。色使いの力強さや形の捉え方の大胆さと繊細さ、生で見たら予想以上に感動しました。多くの人に見てもらいたいです。特に鯨崎さんの4枚の絵にひきつけられました。クレヨン、オレンジ、ピンク、緑がこんなに強くて美しい色だったんだと見入ってしまいました。来年もぜひ出品して頂きたいです。
13	琢磨くん「カーエンブレムたち」くすっと笑ってしまいました。とってもかわいくておもしろい!!いつか本物の車がこのエンブレムをつけて走ってる所をそうぞうしちゃったよ。これからものしい絵を楽しみにしてるヨ。
14	先ず会場に入ってドギモを抜かれましたが、凄いを超えて雲の上の芸術作品です。ピカソ、岡本太郎に見せてやりたかったです。
15	すばらしかったです。ほぼ毎回見ております。ArtBrutというくり方が必要なのかわかりませんが、そのくりがあつてこそあてられた光ということなのかもしれないとも思います。ありがとうございました。
16	世間一般に当然だと思われるモノの色が作家さんの作品では全く異なる。当然と思われない発想に驚き感動しました。
17	平山さんのモモがかわいい。笑った顔が幸せな気分になる。
18	描いている作家さんの写真をのせているのが分かりやすかったです。
19	常識って何だろう。常識つにとらわれて感性がにぶった自分が恥ずかしい。自分を素直に表現できることはすばらしい!!
20	荒木さん：離れた所から見てビックリ。近くに寄ったら、もっとビックリ！すばらしいです。 森山さん：ぶるぶるおじさんの絵に思わず笑ってしまいました。心が温かくなります。 菊川さん：私の大好きな絵です。全体が私の好きなものにピッタリです。 松本さん：すごい一言です。進化していますね。この先、どう変化するか楽しみです。
21	募金箱設置のお願い
22	びっくりしてます。生きた芸術です。
23	受付を担当して、感想を書かれない方も色々話をきかせて頂き楽しかったです。観終わった方が、感動して「募金したい」「入場料をとれば良いのに」などお金を出したくなる気持ちにさせる作品たち…本当にすごいと思いました。
24	とにかくすばらしい！の一言です。人間がこの作品をうみだしてると思うと、ゾクッと感動を覚えます。

1. 生の芸術 Art Brut 展覧会vol.4 熊本県立美術館本館
総数558件 来場者数2,056名

	内容
25	切り絵を長年しておりますが、皆様の感性の高さに感銘しました。構造から色付けまで、皆様になったつもりで一生懸命考えながら見せて頂きました。私の切り絵にも応用させて頂ける所も多々あり感激いたしております。87才ですが人生に御縁が有りましたら、来年も来て勉強させて頂きたいと思いました。
26	通常の展覧会のものより好きです。順番は・・・つけません。
27	お見事、恐れ入りました。色彩がすばらしい。
28	色の使い方、切り取り方、学ぶところがたくさんありました。根気のない私にとって、おこられているようでした。紙を細く切って、繊細的のような作品は目からうろこでした。
29	藤岡さんの作品に驚きました。お話をしないと伺いましたが、何を思っではさみを入れているのか、聞いてみたいなと思いました。北島さんの犬、とても気に入りました。特に口元の赤色の点々がついている絵、何でしょう？歯？いたずらがバレて笑っているようにも見えます。私も赤色が好きです。荒川君のえとけい、私の家にあつたらいいな。そら豆万桜さん。おいしそう!!「万桜」というお名前とてもすてきです。森山さんのぶるぶるおじさん、うちのおじいちゃんにちょっと似ています。私は紺色のぶるぶるおじさんが一番好きになりました。平山さんの正面わんこ、味わい深いです。大好きな絵です。
30	荒木聖憲さん：あまりの緻密さと華やかな色使い、ただただ感動!!涙がでました。 松本寛庸さん：こんな色彩の動物がいたらどんなに素敵でしょうね。ワクワクしました。 藤岡祐機さん：まるで糸くずのようにさいた紙、びっくりしました。紙がふんわりと別もので色あいといい感動しました。 北島宣夫さん：単色でだいたんなおおまかな色使いなのにその動物の表情や性格までしっかり感じとれました。好きでした。
31	今のやりようがとてもサマになっている面々という感想です。
32	独特な発想のあらしで驚きました。これからも頑張ってください。
33	いろいろな年代の方の作品があり、作品もおもしろいとストレートに感じた。(美術館には良く行っているが、この展示もなかなか良かった。作品をもっとたくさん見たいと思った。もっと作品数が多ければ・・・)
34	以前、読んだ小説に「人達の心に新しい世界を作るから作家という」という台詞がありました。この言葉通り、いろんな世界を作り続けていってほしいと思います。心があたたかくなった展覧会でした。ありがとうございました。
35	一つ一つの作品に世界観があって貴重な時間を過ごせたと思います。これからも感動をお願いします。荒木さん超大作ついにみることができました。ずっと観ていたくなりました。
36	Very interesting!! From China
37	感動しました。一日一日の積み重ねが伝わってきました。
38	京都から参りました。全国、全世界規模でアールブリュットの力を拝見しております。今回は作品のどれも感性度が高く、インパクトがあります。
39	作ったものでない、生成したものの新鮮さと恐ろしさ。
40	荒木聖憲さんの四季彩の楽園、すごい一言、感動しました。松本寛庸さんの作品もすばらしいですね。すごいエネルギーを感じます。
41	「障害」はタレントの普通でない方式として、人々に隠しています。すばらしいと思います。
42	I found this exhibition amazing. The colors and shapes are so powerful and they transmit so many emotions. I'm very happy I could see it Thank you !
43	塗った後もアートになる、人間のつくり出すパターンのおもしろさがなんとも新鮮でした。
44	熊本でこのように継続的にアールブリュットの作家さん達の作品を紹介していることに感激しました。みなさんの今後の制作活動を楽しみにしています。
45	楽しい作品、圧倒される作品を拝見でき、あたたかい気持ちになりました。ありがとうございました。アートを通して通じ合うってステキですね。言葉もいいですが・・・
46	どの作品も一度見たら忘れられないインパクトがあり、とても良い作品だと思います。駒田さんの作品が気に入りました。
47	どの作品も楽しんで笑顔でかいたり、つくっている姿が想像できて、私自身も楽しくワクワクしました。とてもよかったです。また参加したいと思いました。ありがとうございました。医療関係の仕事をしてるのですが、障害というよりも認知症のある方の中にもアーティストがたくさんいます。認知症の方の作品もたくさん取り上げてほしい。
48	新しい作家の方々の作品が展覧会の幅を拡げ、また継続して選ばれている作家の作品の深まり、進化を感じました。
49	どの人にも、その人の表現があると思いますが、一人一人の方の本当に個性豊かな表現にふれさせてもらい、元気をいただきました。何か人にこうしてやろうとかの、なんというか作為のない、ピュアな感性の表現に魅了されます。もしかしら出会えずにおわるかもしれない人たちの作品を発掘し、みせて魅せて下さる取り組みに本当に感謝です。各地で拡がることを願います。 私は福祉の実践に携わってきました。福祉は支援ですが、生活には一人一人の物語があって、単に衣食住のケアとかサポートだけではなく、一人一人の世界をいろいろなかたちで表現できるように伝え、寄り添えたらよいと思います。アールブリュットを世の中に知ってもらえる取り組みはその一つとして拡がることを期待します。さらにどの人にも意思があると思いますので、アールブリュットで紹介される表現以外のいろいろな表現も大切にされる社会になればと思います。アールブリュットはふれる機会の少ない人にとっての大切な契機になると思います。

1. 生の芸術 Art Brut 展覧会vol.4 熊本県立美術館本館
総数558件 来場者数2,056名

	内容
50	思わず足を止めてしまう作品ばかりで、作家さんたちのパワーを感じました。とても良い刺激になりました。ありがとうございます。
51	すばらしい一言です。感動した心が一筆書きたくなりました。どの作品も自分の思いのままにこだわりなく、自分らしく描くことはすばらしいこと、損得感情のある人には描けませんね。
52	荒木君の展覧会にかけける想いが伝わってきました。松本くんも相変わらず圧巻です。初めての作家さんもユニークなものや力強いものがあって観ていて楽しかったです。
53	皆さんびっくりするほど色感がすばらしく、特に荒木さんはとても緻密で山下清のような印象を受けました。又、森山さん、荒川君の発想、デザイン力はすばらしく、松本さんに至っては完成度が高く商業的な価値も高い様に思われました。他の方々の作品も無垢で癒されるものばかりでした。皆さんの今後益々の活躍を期待したいと思います。
54	”芸術は自由”カラフルな色をオリジナリティあふれる作品からは、大きなエネルギーが伝わってきました。きっと色々ある中でも小さなHappyをみつけて表現する天才なんだろうな……。障がいのある方の作品だからということではなく、各々の作品からのパワーがものすごく、”生きる力”が感じられます。特に野尻三正さんの作品が好きです。
55	熊本の素晴らしいアーティストの存在をここで知りました。これから人の心を動かす作品作りに励んで下さい。良い作品に出会えて良かったです。
56	荒川君が全校集会で作品が展示されることを発表しました。このように発表して頂ける機会は支援学校関係者として本当に励まされます。
57	お城まつりに来て美術館前のポスターに惹かれてふらっと立ち寄りました。思いがけず、すばらしい世界が広がっていて感激致しました。みなさんの絵を拝見していて、普段自分は頭でばかり物を見ていて、心を使って対象を見ることをしていないのだと気づかせて頂きました。ありがとうございました。奥の荒木さんの絵はすばらしかったのですが、配置的に気づかずに帰る方もいらっしゃるのでは。裏にも展示があることが分かる表示が必要だと思いました。
58	繊細な作品が多く、とても見応えのある展覧会でした。様々な作風の様々な作家さんの作品どれもステキでした。たくま君の数字の絵とてもかわいかったです。また、ぜひ開催していただきたいです。
59	松本さん、色鉛筆で塗られているのが、まるでふわふわした布がはられているように感じました。平面なのに平面でなく丸みをおびているようでした。
60	平山さんのモモがとても印象に残りました。はなしかけられているような感じがして、またちがう日にみたら別のことをばを言ってくれるような、そんな気がする作品でした。ありがとうございました。
61	たまたま通りかかって寄ったところ、大変感動しました。特に色彩の鮮やかさや各作家の作風、表現をしたくてたまらないといった感じが伝わってきてすばらしいと思った。どの作品も素敵でしたが、個人的に松本さんの動物シリーズが特に好きでした。
62	機会があれば必ず見に行くようにしています。見ると元気が出ます。自分も何かチャレンジしてみようと勇気もらいに来ている。これからも楽しみにしています。ありがとうございました。
63	1つ1つの作品に向かって作成されてる姿を想像したら、心があつくなり涙があふれました。大好きな事に集中して身体に気をつけて励んで欲しいです。
64	表現したいこと、もの、イメージを素直に表現してある作品で心がうたれました。これからも造形活動を続けて下さい。
65	どの作品からも作家の心の純粋さ溢れています。無心で無私でひたすら作品に没入されている作家の姿が伝わってきます。涙が溢れて止まりません。
66	色、物の様々なコラボが作家さんの心の動きと相まって語りかけられているようでホッパリ暖かくなりました。ありがとうございました。
67	山口秀隆様：草原に佇むしまうまの目に強くひかれてしまいました。もの言いたげですごく優しい目をしてます。 藤岡祐機様：繊細ではかなげで本当にこれは凄いです。
68	友だちの絵を見て上手でしたので、びっくりしました。
69	皆さん「生」のこもった作品で日々の姿が思われるひとときでした。素敵なものに出会えた空間をありがとうございました。
70	作家さんひとりひとりの個性がよく出ていて、楽しんで創作している様子が作品から伝わってくるように感じました。自分の子供たちも障害があって絵を描くことが大好きなので、この作家さん方のように自由に自分を表現することの楽しさをこの作品展から学んでくれたらいいと思いました。
71	すばらしい感性と綿密な仕上げ、勇気と感動を覚えました。それぞれの作品に時間がかかり、よく頑張っておられる事、感動しました。今後の活躍を期待します。
72	また新たな感動を受けました。身の内まで染みとおるような感動！久しぶりでした。
73	色彩の美しさ、構図の独自性に感心しました。細かい作業のあと完成した作品、みんなすばらしいものでした。
74	発想の豊かさというか、枠組みにとらわれない着想と、そこから生み出された作品に驚きと不思議さ、そして美しさ、おもしろさを感じます。また、すばらしい集中力、(と言ってしまおうと平凡ですが)各作家さん一人一人の人が、それぞれの作品になっているように思われます。とってもいい作品です。みなさんの作品がもっともっと多くの人に感動と驚きを!!
75	色や線が形にとらわれておらず、それぞれの個性がある。

1. 生の芸術 Art Brut 展覧会vol.4 熊本県立美術館本館
総数558件 来場者数2,056名

	内容
76	全ての作品が生き生きとしている。明るく、細やかで、しかも伸び伸びしている作品である。いつの間にか作品に心が引き込まれいくようであった。これからもよい作品をつくり続けて下さい。
77	松本寛庸様「世界連合艦隊Ⅱ」には気が遠くなりました。今後のご活躍をお祈りします。
78	それぞれの作家さんの作品にスゴみがでてきたように見えます。とても若い作家さんも加わり楽しさも感じました。
79	見たことのない色彩や線やかたち、表現にとても刺激を受けました。多くの人々の創造力に働きかける、力のあ作品群、ありがとうございます。
80	放課後デイサービスのスタッフです。作品を見て感動しました。子供達の才能を伸ばしていけるような活動をこれから行っていききたいと思いました。
81	いやいや素晴らしい一言です。全く素晴らしい！
82	平山由美さん：「モモ」猫の笑顔、何とも云えない、楽しくなりました。特に三角形の口です。（猫好きお爺さんより） 菊川豊さん：「魚と鳥」ガラス瓶の中の飛び上がっている様を見て大きな口を開けて笑っている様に思える鳥の姿に思わず心中笑ってしまいました。 荒木聖憲さん：瞬間山下清の切り絵を思いました。ほのぼのとした暖かさ、温もりを感じました。
83	生きるという事は、こういう事なのかと改めて感じさせてもらえる作品ばかりだと思います。美術芸術に今後も是非没頭して下さい。
84	個性あふれる色使いや構成にどのような成り立ちがあるのか考えさせられました。私たちが促えきれているか分かりませんが、良い刺激となりました。
85	感動し鳥肌が立ちました。どれも素晴らしい作品でした。貴重な作品を見せて頂きありがとうございました。
86	どの作品も色鮮やかで見ていて癒されました。作者さん達の人柄を作品と写真の表情で感じることができたように思いました。ありがとうございました。
87	すばらしい！の一言です。作家さんのプロフィールや障害を始めは読んでいましたが、それは逆に失礼な気がしてきました。障害の有無に関わらずすばらしいアート作品です。
88	絵のタッチ感や細かな作業など驚くことばかりでした。良いものを見れたと思います。
89	自分には考えつかない色使いがとてもきれいで、見ていて飽きませんでした。機会があれば写真集とかにしても面白そうだなと思いました。
90	信じられない発想にびっくりです。
91	初めて障がいのある方々による絵を拝見しました。純粋な気持ちや情熱を感じました。熊本だけでなく、宮崎県や延岡、日向などでも開催してほしいです。
92	自閉症の子の作品には疲れを知らない執念がある。常識を超えた表現力には感心させられました。
93	様々な色、形があって楽しく面白く感じました。「ぶるぶるおじさん」はラインのスタンプになったら世間へ広げる事や作家さんへの収入になるなあと思いました。
94	自分にはない、感性や技術があり、とても素晴らしかったです。
95	自分もこの感性がほしい。うらやましい個性です。
96	色彩感覚のすばらしさと想像力、思っている事を素直に表現出来るか。自分ではとても無理だと思った。
97	体の中から生まれた線や色、その行いなどは素晴らしい。僕も表現のその原点を学びたい。
98	なんとも云えないエネルギーを感じます。湧き上がってくるものを表現するのは生きること、そのもののように思えました。藤岡さんの作品、美しい。
99	2回目ですが、駒田さんの作品にとてもひかれます。
100	麒麟の絵がすごかった。（色鉛筆）ちぎり絵（お花の）の小さい所がきれいだった。また、次回あったら見に来たいと思ってます。
101	言葉でのコミュニケーションでは伝わらないような感情やイメージがそのまま伝わってくるようでした。絵を描くこと、創作することをずっと続けていってほしいです。
102	私自身が双極性障害で創作活動をしています。みなさんの作品、とても素晴らしかったです。勉強になりました。
103	全てが人の手によって作られて作品とは思えない程、繊細でステキな作品ばかりでした。心に残ったのはやはり藤岡祐機君の作品で、とてもハサミ1本で作られたとは思えない、ずっと見ていても飽きない物でした。ぶるぶるおじさんのスタンプ風の絵もとてもかわいく好きでした。
104	ここに来る前に違う所で絵を見てきたんですけど、こっちの方が直に視覚を刺激してくれて楽しい。自分が楽しいことをして他の人も楽しい気持ちにできるなんて、いいことばかりですね。
105	駒田さんの作品をと、来させていただきましたが、他の方々の作品も感銘を受けました。また、係りの方々にもご丁寧にご説明頂き感謝です。母の良き誕生日となりました。
106	どの作品も素晴らしく感動しました。このような絵を久しぶりに見ることができました。
107	こんなにすごい技術と感覚は初めて見ました。とても自分には出来ません。これからも頑張って、皆を感動に導いて下さい。
108	皆さんの力強い意志がすばらしいです。荒木聖憲さん：大きな図形での統一感に圧倒されます。どこを見ても、感激します。
109	思ったままを描く、集中して描く、作るのは本当に難しいことなので、皆さんが画面をとおして大好きなことに集中されていることを見られてとてもよかったです。楽しい展示をありがとうございました。もっとこういう展示が増えるといいですね。

1. 生の芸術 Art Brut 展覧会vol.4 熊本県立美術館本館
総数558件 来場者数2,056名

	内容
110	細かい作業を黙々と・・・本当にすごいです!!荒木聖憲さんの作業風景、ただちぎるだけでなく、こよりにしたりして、質感まで大切にされているのを見て感動しました。初めてお会いしましたが、もっとたくさんの方に知って頂きたい作家さんですね。
111	今日はArtBrut展覧会にきて、とってもありがたく、すばらしかったです。たまたま荒木聖憲君に会い、たくさんお話できました。山鹿市の天聴の蔵での出会い、しっかり覚えていてくれて、たくさんのエネルギー頂きました。素晴らしい御縁大事にします。
112	純粋な思いが作品になっているという気がします。個性的な作品に圧倒されます。作者も若い方から高齢の方まで幅広くいいですね。
113	1つの絵でいろんな色をつかうなんてすごいですね!!もようのどこまでをぬるかきめて、びしっとそこでとめるなんすごいです!!
114	いちばんすきなさくひんは、ハサミでほそくきっているさくひんです。2ばんにすきなさくひんは、ふねがたくさんあるえです。
115	障害を持った方の作品展と思い入場しました。でも、ものすごい天才の方々の作品展でした。技術や練習、努力というものも、もちろんあるでしょう。でも、脳のひらめきというか天才のところ、まだ私には理解できていないものもあるんでしょうね。
116	どの作家さんの作品も素晴らしく、大変刺激的な時間を過ごすことができました。 荒川琢磨くん:すごだね!これからも君の才能がさらに輝くよう、全力で支えています。アールブリュット展作家デビューおめでとう!!
117	初めてArtBrutの展覧会に伺いました。どの作品もとても見入ってしまって、その世界観に癒されました。とても素晴らしいです。感動しました。
118	いつも楽しみにしています。荒川君のNUMBERSがとても可愛く、Tシャツとかにしてみたら子どもに着せたいと思うくらいでした。平山さんのモモのタッチも好きです。
119	見たものをそのまま素直に描写する、自分の思いを自由に具現化されている作品が多く見られ、芸術の本質を垣間見ることができた。無題や抽象的なタイトルにすることで高度に受け手の想像を掻き立てるような作品に深い感銘を受けた。
120	新人荒川君の作品を新市街で見る機会があった。かわいいアルファベットだと思ったが、全ての文字に顔があると気づかず。さらには世界地図まで。作家さんもさることながら、キャプション、説明作成の事務局様のおかげで、より楽しめた。
121	松本君、荒木君のが一番すごかった。アクリル展示きれいです。北島さんの犬がはつきりではなく、ほわっとしてていいです。
122	皆さん素晴らしかったです。来て良かった。 荒木さん:貼り絵がすごかったです。 森山さん:スタンプみたいな絵も楽しかった。 曲梶さん:花の写真とか撮られる写真家の蜷川さんとコラボってほしいです。 松本さん:魚の絵はぬいぐるみに長い絵は手ぬぐいにしてほしいです。
123	絵画を販売する様にすれば、もっと理解が広がるのでは。オークション形式でも可。
124	友人に誘われ、初めて訪れました。色彩の鮮やかさ、物の捉え方、斬新かつ繊細、そして大胆。すごく見入ってしまいました。個人的に松本先生の絶滅種と現存種のシリーズが好きでした。(恐竜が好きなので)
125	YUBIATTI、妖怪、PANと割れた風船、発想オモシロイ

2. アール・ブリュット移動美術館 熊本保健科学大学
総数42件 来場者数 106名

	内容
1	絵を見ると相手の長所が伝わってくるので、医療の面で関わる全ての人の長所をみつけて、一人一人の個性・感性を大切にしていこうという思いになりました。
2	初めてこのような美術館を見ましたが、とても良い絵ばかりで、美術のことはよく分かりませんが、気持ちは伝わってきました。
3	分からないけど何か意味のあるものだった。ありがとうございました。
4	何を描いているか分かりづらいものでも、ずっと見ていられるような、不思議な気持ちになりました。
5	口に出せないことや、表現が難しいことを、絵でかけばいろんな人に自分が伝えたいことが分かると思います。作品は、自分を表現できる手段だと思います。
6	障害を持つ人々が定期的にこういう美術展などを開催することで、社会との関わりを失わずに生活することが出来るので良い機会であると思う。
7	作品から素直な表現や集中している姿や才能など、可能性をイメージできました。
8	障害のある方の貼り絵やぬり絵に少し感動し、今後の作業療法に役立てたいと感じた。
9	絵の作り方が独特で面白かった。クオリティが非常に高いと思った。
10	どの作品もとても印象に残りました。楽しめました。
11	初めて見させていただきました。感じるままに表現されていることに大変感銘を受けました。色合いもとても素敵でした。
12	障がい者であろうと健常者であろうと、個性を表現することは、生きていくうえで必要であると思われます。
13	それぞれの世界がとても独創的でした。
14	どの作品を見ても素晴らしい人間の豊かさを感じる。
15	作品の中から、様々な感情が浮かんでくるようなイメージを持ちました。
16	アートっていいなあ。
17	作品から“力”をかんじました。表現の多様性、表現したい・表現できるよこび等、色んなものが作品から伝わってきました。
18	楽しかった。みていてワクワクした。描いている人達の気持ち、笑顔が容易に想像できた。見ている私も笑顔になった。
19	「発見する人」の役割が大事とも思った。障害者と世界をつなぐ人達、医学介護関係者。
20	それぞれの作品は、見ている側の内面を引き出し、勇気づけているように感じる。障害の有無に関わらず、誰にも表現したいという欲望があるようだ。
21	一つ一つの画・作品に製作者の考えや思い、リズム等を感じる。みていて飽きない。
22	作成する過程の中に、その方独自の考え方があることを、見ていて感じました。
23	全ての作品がオリジナルにあふれていて、すばらしかったです。
24	心が温かくなる作品ばかりでした。もっとたくさんの作品を見てみたいです。
25	どの作品も明るく生命力にあふれており、元気が出ます。今日は研修だったのですが、また明日から仕事に、自分の役割にがんばりたいと思います。
26	個性豊かでとてもよかったです。
27	それぞれの個性が光り素敵でした。
28	色使いが鮮やかで素晴らしい作品ばかりでした！
29	大胆な作品から繊細な作品まで個性的で面白かったです。
30	芸術作品を見るのが好きで見ました。よい時間がすごせました。
31	色がきれい。素敵な作品ありがとうございました。
32	絵ハガキなどできるとよいと思います。ありがとうございました。

3. アール・ブリュット移動美術館 天草教育会館
総数101件 来場者数 329名

	内容
1	すべて根気を要する大作ばかりで見事という他ありません。
2	荒木さんの作品に心動かされました。驚きました。これからもちぎって、こよって楽しく続けて下さい。ありがとうございます。
3	すばらしい作品ばかりでびっくりしました。すごいです。引率した利用者さんも驚かれています。利用者も作品作りのきっかけになればと思います。
4	濱大生さんへ。一度お会いしてみたかったです。絵の話とかもしてみたかったです。あなたの絵を見ているとわくわくして、日曜日の朝にTVの前にいるみたいな気持ちになります。あなたの絵が好きです。
5	個性あふれる作品ばかりで、とても感動しました。また、来年も天草である事を希望してますので、よろしくお願いします。
6	作者の方のそれぞれの感性があって、おもしろかったです。とても器用な作品ばかりでした。姉と一緒に来たのですが、展示があるのを知らなかったのもっとアピールしてほしいです。みんなにもっと見て欲しいと思いました。ラインスタンプにしてほしいものもありました。
7	個人個人の作品に力強さを感じられ、心動かされる内容でした。濱大生さんの作品を久しぶりに観る事が出来て、とてもうれしく思いました。
8	感動しました。すごい!!の一言です。多くの人に教えてあげたいです。もっともっと見たいので、是非また展示会して下さい。ありがとうございました。
9	天草で「アール・ブリュット」をみる事ができて、とても感激しています。濱さんの作品をみていると、日頃の自分の内面を見つめなおすことができる気がします。とても素敵な作品で、心が温くなりました。
10	障がいをおもちの方の可能性を無限に感じます。
11	すばらしい作品を見せて頂きありがとうございました。一人一人の個性あふれる作品に感動しています。
12	このまま続けてほしいと思いました。想像していた作品と異なり、驚きました。自分も絵を描くので、みんなの作品を見て、自分も頑張ろうと改めて思いました。後押ししてくれるものでした。
13	写真から伝わる作者の心が伝わってきました。楽しさだけではなく、これまで歩んでこられた日々を感じました。すばらしかったです。
14	皆さんの作品を見て、独創性を感じられ、それぞれ感動して、見させて頂きました。「すごい」の一言です。そして、又、おもしろく見させて頂きました。
15	みなさん独創的かつ繊細な作品ばかりで感心、感動しました。素敵な作品をみせて頂き、ありがとうございました。これからも頑張ってくださいと思います。
16	天草にもぜひ来て欲しい!!と願っていました。移動美術館、ありがとうございます。作家のみなさんの感性の素晴らしさに、パワーを頂きました。来年もぜひ、移動美術館の開催をお願いします。(熊本までなかなか行けないという人も多くいますので) 荒木聖憲くんへ。これからもちぎり絵頑張ってください!!
17	保育園で幼児の自由画に取り組んでいます。幼児画は一時期にしか描けない芸術。アールブリュットは一代限りの芸術。まさに生の芸術だと思いました。私の頭では到底考え出すことのできない構成、表現に驚くばかりでした。また、天草で展覧会を開いて欲しいです。そして幼児画とコラボできれば楽しそう。
18	純粋に美術を楽しみ表現されているので、見ていてとても楽しくなります。かかった時間、手先の器用さなども見ていて分かり、とてもみなさんレベルも高いと思いました。たくさんの作家さんの作品をみたいと思いました。
19	みなさん、それぞれの特技をいかした作品がものすごく時間をかけられていると分かります。すばらしいと思いました。コピー用紙をはりあわせた作品も色の使い方がとてもステキで素晴らしかったです。
20	どの作品もドキッとさせられました。社会の中で障害のある、なしで接点のないことが多く残念に思います。作品を見せて頂きありがとうございました。
21	お一人お一人の作品制作活動が大好きなんだなと伝わってきました。これからも得意なことをいかして活動してほしいと思います。そして、私たちに勇気と優しい心を与えて下さいね。ありがとうございました。
22	色んな物や絵具を使って数々の作品作り上げておられ、みなさん、すごいですね。また、今後もゆつくり作品を作って見に来られる機会があれば、子どもと一緒に来たいと思いました。

3. アール・ブリュット移動美術館 天草教育会館
総数101件 来場者数 329名

23	濱君の小学生の頃の作品を久々に見ることができ、涙が出そうになりました。みなさんの作品すばらしく創作課程が気になりました。動画などで紹介があると、もっと分かりやすいかと思いました。
24	みなさんの感性の豊かさに感動しました。いろいろな人達に見てもらえる場がある事はとても良いことだと思います。
25	初めて観させてもらいました。もっとこんな機会が増えるといいと思います。表現することはすばらしいことだと思います。これからも自由に表現してってほしいです。
26	知的障害を持つ子の親です。子どもに誘われて見に来ました。会場に入って、あっと驚きました。皆さんの作品の色使い、細かい作業、集中力、表現力とどれも素晴らしく胸が熱くなりました。これからも素晴らしい作品を作して下さい。
27	思いつかないような色、形など感動できる作品を見れて良かったです。
28	どれも心打たれる作品ばかりでした。色は心をなごめさせると常々思っております。美術館のない天草で良い機会に出会いました。
29	描く楽しさを感じるばかりで、見ている私も楽しい気持ちになりました。ありがとうございました。毎年開催されることを願っています。
30	思いを表現するのは言葉だけでなく色んな方法があると思いました。
31	20年余り前、知り合った自閉の人、ダウン・・・各々の力を引き出すことが出来ませんでした。この作品を見ながら、みんなに冷たい目でみられ、見てももらえなかった作品を思い出しました。
32	初めて体験した時間と空間でした。一人一人にそれぞれの個性がありますが、それらを受け止め流れ出る道筋を造っていかれた周囲の方々の感性の素晴らしさなしには、ご本人の個性は確立しなかったらと思う、ご家族をはじめ周囲の方々の素晴らしさを想いました。
33	皆様の才能にびっくりしています。多くの人に見てもらえたらいいと思います。
34	全部の作品を観せて頂きました。どれもみんなすてきでした。色がきれいだったり、アイデアがおもしろかったり。これから、どんな作品が生まれるのか、とても楽しみです。
35	天草市社協主催の福祉まつりや毎年、県内で開催される自閉症啓発デー等(他にも)たくさんの方々の地域の方々に見て頂ける機会を作して下さい。特に地方では、このような機会は少ないので。皆さんの作品にきつと元気・パワーをもらえんと思います。
36	皆さん、細部までとても上手に描いておられ感心致しました。涙が出そうです。ご両親様の力もあったことだと思います。
37	同僚のすすめで見に来ました。それぞれの作家さんが、それぞれの味を出して作品が出来上がっていることに感動しました。実物はやはり迫力があるなと感じました。
38	今回は、濱大生さんの絵を見に来ました。彼の描く繊細な絵がとても大好きでした。もっともっと描いてほしいかったです。今回濱君の出身地ということで展覧会を開催して頂きありがとうございました。他の作家の方の作品もとてもすばしかったです。また見に行きたいです。ありがとうございました。
39	何といっても「すばらしい」の一言です。色使い、細かさ等に自分にはない”才能”を十二分に発揮して、生き生きとした作品にびっくりというより感動しました。言葉で表現できないものを感じました。
40	今回たまたま知り、見に来ましたが、とてもすばらしい作品ばかりで、びっくりしました。皆さんの感覚のすごさ、何気なく普通に生活して来た私からは発想できないものばかりでした。本当にすばらしい作品を見せて頂きました。時計の絵を見て、どのように日常がうつっているのか、とても不思議な感覚になりました。
41	それぞれの病気をもちながら、すごい作品を見せてもらい感動しました。私も何か出来ないかな？自分の身体にいいきかせました。
42	熊日新聞にて生の芸術、展覧会、開催を知り、立派な会場にて作品を見て、作品者の笑顔、画面を見て深く感動させられ感銘致しました。
43	天草ケーブルテレビの放送で知りました。今まで見たことのないような作品で心をうたれました。何ヶ月という制作に没頭されるのに感銘を受けました。これからも頑張ってください。
44	・会場に入るなり、鳥肌がたちました。すごい。全てが!! ・不思議な空間に入った感じがした。 ・個人の才能を引き出した家族、先生方もすごいです。

8. 来場者アンケートから読み取れるもの

熊本県内で開催する Art Brut（生の芸術）関連の展覧会では、以前から来場者アンケートに答えてくれる人がとても多かった。2018 年の 3 会場でも多くの人が感想を寄せてくれた。熊本県立美術館の「生の芸術 Art Brut 展覧会 Vol. 4」（10 月 2 日～14 日）では来場 2056 人で回答 558 件、「アール・ブリュット移動美術館」熊本保健科学大会会場（10 月 20 日～21 日）は 106 人中 42 件、天草教育会館会場（11 月 30 日～12 月 2 日）は 329 人中 101 件と、いずれも約 3 割から 4 割の高い回答率だ。

回答率とともに特徴的なのが作家名を挙げる人が多いこと。特に県立美術館の「展覧会 Vol. 4」では回答者の約 3 割が作家名を記していた。さらに具体的な作品を示して感想を述べる人も多かった。これらの回答には、作家の知人や福祉関係者も少なくないと思われるが、同時に Art Brut ファンの裾野が確実に広がっていることをうかがわせる。

一方、アンケートに「初見」と記述しているのは 5 %ほど。一見すると少ないが、記述内容を吟味すると、初めての展覧者も相当数に上がることが分かる。リピーターの増加に加え新たなファンも…というのは楽観的すぎるだろうか。

アンケート回答には「個性的で力強い」「純粋」「独創的で自由な表現」「美しさに感動」といった言葉が並ぶ。ほとんどの人が新鮮な感動や驚きを表しているが、一部に「アール・ブリュットというジャンル分けに疑問を感じた。分ける必要を感じない」という指摘もあった。福祉的視点を超えたアートとしての価値を評価したものと思われる。

熊本保健科学大学は大学祭に合わせた開催。「感じるままに表現されていることに感銘を受けた」「見ていてワクワクした。描いている人達の気持ち、笑顔が容易に想像できた。見ている私も笑顔になった」など素直な反応。医療・福祉を学ぶ学生だけに「今後の作業療法に役立てたい」といった言葉もあった。

天草は県内で唯一の未開催地域。ここでも「今まで見たことのないような作品で心をうたれました」など感動を表す回答がほとんど。天草在住で 2017 年秋に亡くなった若手作家の特別展示に言及する人も少なくなかった。遠隔地で美術に触れるチャンスが少ないためか、「このような機会がもっとあればいいな」といった要望も出された。

会場での制作実演、作家の写真とプロフィール紹介も好評だったが、発表の場も注目されるチャンスもなく「見いだされないままの方もいらっしゃるのでは」との重い指摘もあった。

アール・ブリュット パートナース熊本
副会長 安達憲政

9. アール・ブリュット パートナーズ熊本、事業事務局 名簿

アール・ブリュット パートナーズ熊本 理事・役員名簿

	役職名	氏名	所属団体及び役職
1	会長	西島 喜義	熊本市 元副市長 熊本市シルバー人材センター 理事長
2	副会長	安達 憲政	熊本日日新聞社 前編集員 熊本大学文学部非常勤講師
3	副会長	林田 直志	公益財団法人 永青文庫 常務理事
4	理事	栗崎 英雄	熊本県知的障がい者施設協会 前会長 (第二つつじヶ丘学園)
5	理事	日隈 辰彦	熊本障害フォーラム (KDF) 事務局長 (ヒューマンネットワーク熊本)
6	理事 事務局長	三浦 貴子	熊本県身体障害児者施設協議会 会長 (愛隣館)
7	監事	川村 隼秋	熊本県手をつなぐ育成会 会長
8	監事	塘林 敬規	熊本市社会福祉施設連合会 事務局長 (大江学園)
9	アドバイザー	藏座 江美	一般社団法人ヒューマンライツふくおか 理事 元 熊本市現代美術館 主任学芸員
10	コーディネーター	岩下 勉	熊本日日新聞社編集局政経部 次長
11	コーディネーター	西 恵美	熊本市手をつなぐ育成会 副会長
12	コーディネーター	土井 章平	野々島学園 施設長

事業事務局

	役割名	氏名	所属
1	事務局長	三浦 貴子	社会福祉法人愛隣園 障害者支援施設愛隣館 館長
2	事務局	納富 久	社会福祉法人愛隣園 障害者支援施設愛隣館
3	事務局	堀田 直美	社会福祉法人愛隣園 障害者支援施設愛隣館
4	事務局	久武 康博	社会福祉法人愛隣園 障害者支援施設愛隣館
5	事務局	富田 芳博	社会福祉法人愛隣園 障害者支援施設愛隣館
6	事務局	福山 清一	社会福祉法人愛隣園 障害者支援施設愛隣館

平成30年度厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業
(熊本県障がい者芸術文化活動普及支援事業) 報告書

(企画・編集)

社会福祉法人 愛隣園 障害者支援施設 愛隣館

《アール・ブリュット パートナーズ熊本》

〒861-0551 熊本県山鹿市津留 2022 <http://aileans.com/saca/>

Tel:0968-43-2771 Fax:0968-43-2793 Mail:ailinkan@magma.jp

(企画・構成)

三浦貴子

(編集・校正)

富田芳博・納富久

(印刷・製本)

株式会社トライ

(助成)

平成30年度厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業
(熊本県障がい者芸術文化活動普及支援事業)